



平成 27 年 7 月 6 日
国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所

お知らせ

東日本大震災を決して忘れない

～3mの津波来襲を想定した「避難訓練」を実施しました～

6月26日（金）、衣浦港の国の工事では初となる「津波避難訓練」を実施した。訓練は、衣浦港西防波堤改良工事に携わる潜水士を含む作業員を対象として実施した。南海トラフ巨大地震・津波が発生した場合、防波堤の工事現場には、想定では最短で55分後に海拔約3mの大津波が来襲することが公表※されている。

今回の訓練は、津波が発生し到達するまでの想定時間内において、『いかに早く』『可能な限り高い場所に逃げる』事が出来るかの検証を目的として実施したものである。

訓練には18人が参加、想定される津波の到達時間55分以内に避難出来る事が確認出来た。

※ 出典：衣浦港BCP協議会資料【避難対策編】2. 津波避難対策の検討 2.3想定津波の概要
(平成27年6月24日)

■ 訓練の内容（結果）：別紙1

■ 訓練状況写真：別紙2

※訓練の状況写真が、ご希望の方は対応致しますので、問い合わせ下さい。

● 配布先

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、半田記者クラブ、碧南記者クラブ、
港湾新聞、港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

● 問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所 衣浦港事務所
航路管理課 課長 伊藤（いとう）

Tel 0569-21-2311

Fax 0569-21-2312

「津波避難訓練」の内容(結果)

6月26日(金)、衣浦港の国の工事では初となる「津波避難訓練」を実施した。

南海トラフ巨大地震が発生した場合、現在工事を進めている衣浦港西防波堤の工事現場には、想定では最短で55分後に海拔約3mの大津波が来襲することが公表されている。

今回の訓練は、津波が発生し到達するまでの想定時間内において、『いかに早く』『可能な限り高い場所に逃げる』事が出来るかの検証を目的として実施したもの。

重さ1.5トンある被覆石を投入・均し作業を行う、衣浦港西防波堤の工事現場(海上)と、重さ4トンある被覆ブロックを製作する工事現場(陸上)の2カ所にて実施した。

工事現場に『大津波警報発令』の情報伝達が入ると、潜水土を含む作業員らは、一斉に避難を開始した。

海上現場の潜水土と作業員は、潜水作業船にて避難を開始し、武豊港内の1号地岸壁に着岸、徒歩にて指定避難場所である「衣浦小学校」まで避難した。

陸上現場の作業員は、半田市が「緊急避難場所」として指定している「臨港道路武豊線架橋」まで徒歩で避難した。

訓練には海上現場15人、陸上現場3人が参加、津波発生から避難に要した時間は、海上で35分、陸上で17分であり、『想定される津波の到達時間55分以内に避難場所まで避難出来る事』が確認出来た。

いつ起こるか分からない「巨大地震・津波」への対策をより現実のものとしていくために、潜水土の浮上方法や緊急浮上をした場合の対処方法等も含め、「避難計画」策定の必要性・重要性を痛感した訓練となった。

● 訓練後の「反省会」で参加者から出た意見・感想は以下の通り。今回判明した課題を踏

- ① . 防波堤現場から陸上に避難するより、船で沖合に避難する方が良いのではないかな。
- ② . 実際に大地震・津波が発生した場合、「パニック」状態となって、今回のように対応出来
- ③ . 実際に歩くと自動車が多く歩きにくかった。実際に大規模な地震が発生すれば、自動
- ④ . 今回の訓練では「携帯電話」で情報伝達したが、災害時は繋がらない事が懸念される。小型無線機を陸上・海上ともに配備するなどの情報伝達体制を構築する必要がある。
- ⑤ . 現実に津波来襲となった場合には、潜水土が緊急浮上せざるを得ない。潜水作業中止から避難を考えると、避難は今回の訓練以上に時間を要する。潜水病(再圧等への措置)への対応・病院への搬送方法等も検討しておかないといけないが、大規模な地震が発生した場合に病院が受け入れてくれるだろうか。

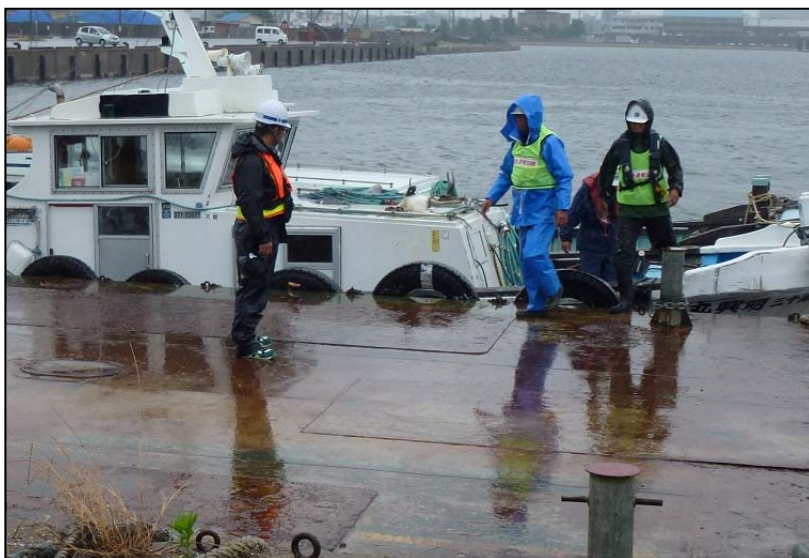
別紙2



「津波警報発令」を現場に伝達する様子



防波堤現場より潜水作業船で避難する様子



武豊港内の1号岸壁に着岸、下船する様子



指定避難場所「衣浦小学校」まで徒歩で避難する様子



「衣浦小学校」に到着、「全員無事か」点呼している様子



ブロック製作ヤードから避難を開始する様子



緊急避難場所「臨港道路武豊線架橋」まで徒歩で避難する様子



「臨港道路武豊線架橋」に到着、「全員無事か」点呼している様子